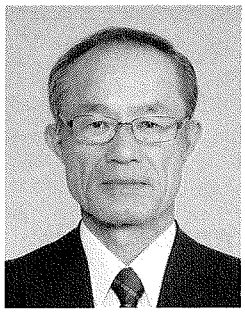

巻頭言

「地域おこしに思う」

北興化学工業(株)
取締役執行役員　内山次男

今年は梅雨明けから記録的な猛暑が続き，多くの人が熱中症で亡くなり，農作物や家畜にも多大な被害をもたらした。台風９号の上陸でやや暑さも和らいだ９月中旬，私の住む神奈川県厚木市で「Ｂ級ご当地グルメの祭典 Ｂ-1グランプリ」が開催された。

Ｂ級ご当地グルメとは，地元の人に愛されている安くて旨い名物料理や郷土料理のことをいう。このＢ-1グランプリは今年の日本一を決めようというイベントである。

地元市民グループからなる「ご当地グルメのまちおこし団体」は，宣伝活動を全国に広げ，自慢の地元料理をブランド化して経済価値を高めることで地域の活性化を図ろうと，2006年に第１回Ｂ-1グランプリを青森県で開催した。その後，静岡，福岡，秋田の各県で毎年１回開催されてきた。今回は５回目の開催となり，宮城の郷土料理「登米・油麩丼」，地域特産物を利用した「三崎まぐろラーメン」など全国各地の様々なご当地グルメが過去最多の46品出展された。

初めての首都圏での開催とあって，週末の土・日，２日間で約43万人が来場し，会場に設営されたテントの前には長蛇の列で末尾が分からないほどの賑わいだった。

これまでに，グランプリを受賞したご当地グルメは，全国に知名度をあげ，これを目当てに遠くから多くの観光客が訪れ，予想以上の経済効果を上げている。静岡県富士宮市の「富士宮焼きそば」は，ＰＲ活動を始めてから９年間で販売額，宣伝効果を約430億円と試算，「厚木シロコロホルモン」は1年間で約78億円を見込み，秋田県横手市の「横手やきそば」は，１年間で約７億円の売り上げを見込んでいるという。

来場客による投票の結果，今回のＢ-1グランプリ１，２及び３位は，それぞれ山梨県甲府市の「甲府鳥もつ煮」，岡山県真庭市の「ひるぜん焼そば」及び青森県八戸市の「八戸せんべい汁」となった。来年は兵庫県での開催が決定しており，更なる盛り上がりが期待されている。

出展数，来場者とも最高となった今回のイベントの成功は，グルメブームの中でご当地グルメが多くの人の興味を惹きつけたこと，出展グループの地元活性化に対する熱心な取り組みと主催団体の企画力が要因ではないかと想像する。

現在，過疎の市町村は全国で770余り，45％に達しており，今後も地方の過疎化は全国的に進行すると予想されている。人口減少と高齢化で地元産業の低迷が続く地域では，地元団体や地方行政によって活力再生の地域おこし活動が進められている。

地域おこしには，地元住民組織が主体となって行政，関係団体との協力体制を築くこと，その土地の特産物や観光資源の発掘と開発を行い，他の地域にない独自ブランドを創出すること，各種イベントや地域交流を通じて，その価値を高め産業振興につなげる組織的活動を継続的に展開することが肝要ではないだろうか。

農村においては，食物生産のほかに国土保全，景観，生物多様性の維持・保全など多面的機能を有しており，農産物と美しい自然環境を介して地域都市との交流から地域産業を創出し，経済的，文化的活性化を進め元気で持続力のある農業を目指してほしいと思う。